

みんなに伝えよう！
介護の仕事、福祉の仕事

神奈川県介護福祉士養成校連絡協議会事務局
小林 根



平成19年は、介護職のイメージダウンにつながる報道が介護業界に吹き荒れました。コムスン事件をきっかけにしてマスコミが一齐に介護現場の人材不足や低賃金を報じるようになり、その結果、介護職を懸念する動きが全国的に広がりました。

介護福祉士を養成する教育機関でも今年度の学生募集は、かつてないほどの低調な結果となっています。折りしもこの8月、政府は社会福祉事業での人材確保指針を改正しました。その中で、国民に対して福祉・介護サービスの周知理解を図る、という項目があり、教育機関が生徒に対してボランティア体験の機会を提供したり、あるいはマスメディアを通じた広報活動を行ったりするという内容でした。

国もやっと重い腰を上げたところですが、官民を問わず、できることから始めてみてはと思います。「みんなに伝えよう！介護のこと、福祉のこと。きっと役に立つから。」という言葉が、今から10年以上も前の介護の現場で交わされていました。今一度、この言葉の意味を問い直し、介護がどんなに尊く、やりがいのある仕事なのか、また社会的にとっても重要で、世の中からどんなに必要とされているのか、ということのを正しく理解される社会を築いてゆければと思います。



西加瀬町内会の横田会長（右）はじめ、地域に住む方々とともに夏祭りは大いに盛り上がり、笑顔があふれます



12月21日の講座は、この季節にぴったりのクリスマスリース作り。子どもたちはボランティアと遊びながらお迎えを待ちます



は、住民の方々に園のことを分かっていたら大きく大きなチャンスだと思っています。町内会の力を借りながら利用者と地域のふれあいの機会をもっと作りたい」と、町内会を基盤に地域交流の広がりを目指します。

障害のある子どもが「育ちやすい地域に」高津区・県立高津養護学校

去る十一月四日、県立高津養護学校を会場に、子どもたちとその家族、近隣の住民をはじめ福祉施設やボランティア、行政関係者等百三十人が集まり、震災を想定した避難所設営訓練や中越地震を体験した小学校の元校長先生の講演等が行われました。

訓練の前には当日の進行がスムーズに行くようにボランティア向けの講座も開催され、講師として参加した川崎災害ボランティアネットワーク会議代表の植山利昭さんは、「今回の訓練のような具体的なアクションを通し、積極的に地域への投げかけをしたい」と話し、今後は学校と近隣の防災関係グループとをつなげ、活動の展開をはかりたいといま

す。学校では障害のある子どもたちが暮らしやすい環境づくりを地域とともにすすめており、近隣の高校生と学校の子どもたちとの交流活動支援や、地域に住む障害者のための公開

講座等を行っています。地域支援担当教諭の今泉修一さんは、「地域の方に養護学校と子どもたちのことをもっと知ってもらい、学校以外での関係を築き、広げていきたい」と話し、今回の訓練後にはこれまでの実践の発表会を学校の作品展にあわせて開催し、さらには近所の住民向けに行事予定入りの手作り防災カレンダーの配布を行うなど、より一層地域との連携をすすめています。

川崎市内で展開されている取組みには、施設、学校、町内会など社会資源のそれぞれの持ち味が活かされ、特色ある協働の姿が築かれています。